



学びの個別最適化 ②

『個別最適な学び』 についての話をさらに進めます。が、……。

先生が熱心に
教える授業から
生徒が熱心に
学び合う授業へ

これは、私が金沢市立西南部中学校に校長として勤務していたときのものです。当時研究主任だった奥野智之先生が作成してくれたスライドです。西南部中の学びを進めていくための「職員研修会」のために彼が作成してくれたものです。

私は、「**できる限り、教えない授業**」と言い換えさせてもらいました。各教科部会で、熱心な議論が重ねられていました。新型コロナウイルスとの戦いが始まったばかりの頃ですが、当時の先生たちは熱気に溢れていました。

明日から3連休ですので、ちょっと脇道にそれたお話を書くことにします。

「I JUST SUED THE SCHOOL SYSTEM !!! (学校システムを訴える!!!)」

<https://tabi-labo.com/279741/i-just-sued-the-school-system>



「学校教育は、魚に木登りを強制してないかい?」。あるラッパーのメッセージ

TABI LABO というサイトの中です。「金魚の木登り」と打ち込んで検索したらすぐに出てきます。

私が、「**できる限り、教えない授業**」をと、西南部中学校の先生たちに話していた時に出会いました。

実は、その3年くらい前にはかなり話題になっていたとのことでした。

私は、そこで語られている内容を活字にして、先生たちに配りました。

日本中の学校が休校になっている時でした。前半の部分、紹介します。

アインシュタインはこう言いました。すべての人に天賦の才がある。

しかし、もし金魚が、木登りの能力で評価されるとしたら、その魚は自分のことを無能だと思い込んで、一生を終えるでしょう。『現代学校教育』は、魚を木に登らせたのに加えて、木から降りさせて、16kmのマラソンをさせたのと同じです。学校さん、ご自分のしたことを誇りにお感じですか?何百万人もの人々をロボットのように扱って、ご満悦ですか?どれほど多くの生徒たちが、自分は魚と同じだと感じているのでしょうか?教室で無理に泳がされ、自分の能力にも気づけず、自分がバカだと思い、自分が無能だと信じ込まされているのです。もはや言い逃れはできません。

私は、『現代学校教育』を、創造性と個性の殺害及び知性の虐待の罪で起訴します。

学校はもはや歴史の遺物であり、その務めにふさわしくありません。以上で冒頭陳述を終わり、お許しがいただければ本件に関する証拠をもとに立証に移りたいと思います。

証拠A これが今日の電話、そしてこれが150年前の電話、大きく異なります。これが今日の車そして、これが150年前の車です。まるで別物です。ご注目ください。これが今日の教室です。そしてこれが150年前の教室の風景です。

恥ずべきことではありませんか。文字通り1世紀以上も前と何も変わっていないのです。

あなたは生徒たちに未来への備えをさせると言いますが、この証拠をもとにお尋ねします。本当に未来に備えているのか、過去に閉じ込めているのか、どちらですか?

ちょっと過激ですが、一見の価値はあります。来週また『個別最適な学び』を続けます。